

From JPMA

バイオ・ベンチャーの育成と国内投資促進について

現在、世界最大の医薬品市場である米国で販売承認される新薬の半分以上が、バイオ・ベンチャー企業が創製した物質となっており、大手製薬会社の自社研究だけでは限界があることは明らかである。また、バイオ・ベンチャー企業起源で現在世界の主要製薬企業が開発中の品目は、そのほとんどが米・欧のベンチャー企業の創製によるものであり、日本では創薬のできるベンチャー企業がほとんど育っていない。この問題解決のためには、法人税率軽減、研究開発減税の継続、エンジェル税制（ベンチャー企業投資促進税制）の対象を個人投資家から企業にも拡大するなどが必要であり、スペシャリストを海外から招聘し、有望なベンチャーを日本で育成することと併せて、製薬協としても行政に提言していきたい。（11月18日 会長会見より）



日本製薬工業協会
会長 長谷川 閑史

日本製薬工業協会（製薬協）

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者中心の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。